



小さな世界都市の実現 豊岡市へようこそ ～Local & Global City を目指して～

豊岡市大交流課 田島 力

芸術・文化とコウノトリ

「海外自治体幹部交流協力セミナー2015（フランス事務所管内）」（以下「セミナー」という。）地方交流事業が7月23日（木）～29日（水）の7日間の日程で兵庫県豊岡市において行われました。自治体国際化協会が行う本事業は、受け入れ自治体が海外自治体幹部の訪問を受け、国内および海外地方自治体幹部などが、互いの制度の違いを理解した上で、地方行政が直面する課題等について、意見交換を行い、相互理解を深めるプログラムです。

近年、豊岡市は、芸術文化の創作活動支援を通じた地域の活性化、自然環境と経済活動の調和を重点的に行っていることから、2つのテーマを設定しました。

- ①地方都市における芸術・文化を活用したツーリズムと地域活性化の取り組み～パフォーミング・アーツ・ツーリズムを目指して～
- ②コウノトリの野生復帰の取り組みをシンボルとした環境再生への取り組み

プレゼンテーション

今回のセミナーでは、フランスから6名の自治体幹部職員の方に豊岡市へお越しいただきました。

中貝市長への表敬訪問後、参加者からフランスの各自治体について、プレゼンテーションを行っていただきました。お互いのまちの規模、自然環境などが豊岡市と似通っている印象を受けました。

豊岡市からは、中貝市長が今回のテーマに沿って、次のことについて豊岡市の現状を説明しました。

- 1. 城崎温泉は1925年の北但大震災で壊滅的な打撃を被ったが、まちの結束力により見事に復活を遂げた。
- 2. 城崎温泉がミシュラン・グリーンガイドで2つ星を獲得した。

- 3. 城崎国際アートセンターにおいて、パフォーミング・アーツ・ツーリズムを通じて、芸術・文化を活用し、豊岡市を世界に売り込んでいる。
- 4. 城崎温泉を中心とした豊岡市への訪日外国人が増加している。

2015年においても9月までの数値で前年対比約2倍の伸びがあり、2020年には、訪日外国人10万人を目指している。

年 度	豊岡市への訪日外国人数
2012年	4,732名
2014年	15,231名

（豊岡市調査資料より）

- 5. 近畿地方最古の芝居小屋「出石永楽館」^{いずしえいらくかん}は、一度閉館に追い込まれるも、再生に取り組み、2008年に見事、復原された。今では、片岡愛之助さんが座頭の「永楽館歌舞伎」も開催され、人気を博している。
- 6. 国の特別天然記念物コウノトリは生息環境の悪化により、1971年に日本の空から姿を消した。しかし、豊岡市が野生復帰に向けて市民、行政が一体となって取り組んだ結果、2015年11月25日現在では、生息数は、野外で81羽、飼育で96羽にまで増加している。人工飼育が軌道に乗ると、「コウノトリを野生に帰すこと」「コウノトリも住



中貝市長とセミナー参加者



める環境を作ること」を目標に取り組んでいる。さらに、農薬や化学肥料に頼らない「コウノトリ育む農法」による「コウノトリ育むお米」をブランド化し、販売している。

地域住民との交流

セミナー参加者には、コウノトリの郷公園にてコウノトリの観察や、「コウノトリ育むお米」での人生初のおにぎり作りなど、豊岡市の自然環境保全への取り組みについて、体験していただきました。

また、城崎温泉にも宿泊し、日本食の素晴らしさと情緒豊かな街並みを満喫していただきました。

豊岡市民との交流を深めてもらうため、ホームステイも実施しました。ホストファミリーとして6世帯の方々に受け入れをお願いし、2泊3日で豊岡での暮らしを経験していただきました。ホストファミリーと一緒に商店街で買い物をしたり、近郊を観光したりと、草の根レベルの国際交流を実践してもらいました。



城崎温泉旅館前にて浴衣を着て一枚

意見交換、合唱

セミナー終盤には、セミナー参加者、クリア職員と市役所職員の3者が一同に集まり、視察内容や豊岡について意見交換会を実施しました。議題としては、予算額、組織、職員数から始まり、伝統・文化、子育て、出生率、空き家対策、雇用、経済活動、絶滅危惧種対策など様々な意見交換ができました。

特に豊岡市がインバウンド観光を推進していることを説明し、中でもフランス語ホームページの作成については、フランス語を母国語とする方々の目線での貴重な意見をいただいたことで、ホームページ作成の一助となり

ました。加えて、フランス人が旅行をする際の予約方法や、よく見る予約サイト、旅行計画時期などについてもお聞きすることができ、今後の豊岡市としてのインバウンド観光政策において、貴重な意見交換会となりました。

最後の夜は、セミナー参加者、ホストファミリー、クリア職員、豊岡市職員総勢約25名で合同夕食会を行い、これまでの6日間を振り返り、豊岡での体験や交流の話題が尽きることはありませんでした。

夕食会の最後に「オー・シャンゼリゼ」と「ふるさと」をみんなで合唱するなど、心の通った日仏交流ができた実感しています。



夕食会で歌うセミナー参加者

セミナーを終えて

セミナーの受入れを終えた豊岡市としては、今回の反省点として、各視察先ではもう少し時間的に余裕を持つこと、行程全体で予定を入れすぎないこと、双方の行政システムを理解するため、組織体制、事業内容などについて時間をかけて意見を交換する時間が必要であること、などが考えられます。これらの問題が解決できれば、より相互理解が深まったことでしょう。

最後に、セミナー参加者のみなさま、日本での長期間にわたる視察、研修大変お疲れ様でした。豊岡市といたしましては、フランスとの関係強化に役立つ貴重なご意見をいただきましたので、今後の施策に活かしていきたいと思えます。

※海外自治体幹部交流協力セミナーは、テーマに応じた海外の自治体幹部職員などを自治体国際化協会の海外事務所を通じて招聘し、受け入れ先の自治体との相互理解・交流を目的として毎年実施しています。平成28年度については、現在、受け入れ自治体を調整中です。